

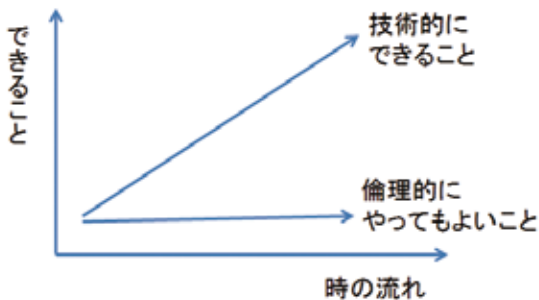


インターネット上の人権侵害

～ネット・スマホの安全・安心な利用について～

NPO なら情報セキュリティ総合研究所理事長・帝塚山大学教授 日置 慎治

最近の技術の進歩はすさまじい。その結果として「技術的にできること」は時代とともに飛躍的に増加している。今や小学生でもスマホを使って友人の写真を撮り、それをネットにアップして全世界に公開できる。しかし、これは友人の肖像権を侵害するという意味で人権侵害であり、やってはいけないことなのである。落ち着いて考えてみると、人間社会において、「倫理的に(あるいは場合によっては法的にも)やってもよいこと」というのは時代が変わっても劇的には変化しないものである。



図で示したように、「技術的にできること」と「倫理的にやってもよいこと」のギャップがどんどん拡大していることがネット・スマホ問題にも大きく影響している。技術の進歩をとめるわけにはいかない以上、ギャップの存在を受け止め、常にやってよいことかどうかを判断する「情報モラル」の重要性が高まっている。

刺青(いれずみ)は簡単には消えない。ネットに一度公開された書き込みや写真も簡単には消せないことから、電子刺青(=デジタルタトゥー)と呼ばれる。客の悪口をネットにつぶやいた店員がこのことが原因で退職に追い込まれたが、この事実がネットに残っている限り再就職に困難が予想される。恋人に送った裸の写真が別れた後にネットに公開されるリベンジポルノ。ふざけ半分で友達をいじめる書き込みをしたが後悔しても消せないこと。デジタルタ

トゥーの負の側面をしっかりと見据えて、ネットに公開するまえに一旦立ち止まって考えることがますます求められている。

友達の連絡先を無断で誰かに教えることは誰もやらない。しかし友達に勧められるままアプリをインストールしたために、スマホに保存されている連絡先をこっそりネットに公開していたというアプリがある。このように意図しなくても友達の個人情報を漏れいさしてしまうこともある。アプリをインストールする前にネットで評判を調べる、という「情報モラル」が重要である。

自分の写真をネットに投稿したため、加工されて出会い系サイトに使われたり、懸賞サイトに登録したメールアドレスに詐欺メールが殺到したり、GPS機能付きのスマホで撮影した写真の位置情報から自宅が特定されたり、個人情報漏れる危険性は多岐にわたる。

このような状況に対応するため、自治体やNPO、ネット関連の企業等が主体的にネット・スマホ啓発講座を開催している。また、学校や地域でもルール作りが行われるなど様々な取組が行われ、またお互いに情報交換がなされている。

奈良県では、高校生たちが自分たちでネットやスマホとの付き合い方を考えたり、大学生が小学校に出向いて講習会をするなど、草の根的な活動があり、全国的にも注目されている。

ネットやスマホは便利なものである。うまく使えば我々に恩恵を与えてくれることは間違いない。ただ、使い方を誤ると危険なものに変わる。そのことを理解したうえで、上手に使うためにどうすればよいか、これからも常に考え続けることが大切である。その一助になればと考えて、日々活動を続けている。